

木の駅ねばりん実行委員会

調査団体名 : 木の駅ねばりん実行委員会
 設立年 : 2013年8月
 団体URL :
 活動拠点 : 長野県下伊那郡根羽村
 取材日 : 2014年12月13日

団体代表者名 : 石原明治委員長
 対応してくれた人の名前 : 南木一美副委員長・事務局
 調査員 : 沖 章枝、松井賢子、浅田益章
 レポート作成者 : 浅田益章

活動内容

根羽村は豊田市役所から65kmと山深い所にある。根羽村のある国道153号線は風光明媚な自然がいっぱい。杉だらけの美しい村である。木の駅ねばりんはこの村で活動している。地元の豊富な杉の間伐材を、地元で建設中の高齢者福祉施設の暖房など、薪ボイラーによる燃料として使うことで、村内の地産地消の循環経済が成り立たないかとプロジェクト組織で推進している。2015年3月に予定されている高齢者福祉施設ねばねの里「なごみ」の開館が待たれる。村内流通の地域通貨、森券によって地域を活性化させる。広がる夢は大きい。

キャッチフレーズ

村のおじいとおばあへの心と体を暖める

会のモットー(何を大切にしているか)

山に向き合う為の仲間づくり

設立から現在に至るまで変化したこと

- ①毎月委員会を開催している。
変化点を見つけて早い手が打っている。
- ②第一期終了後、実行委員会と別組織で“薪の駅”をたちあげた。
非営利の木の駅プロジェクトと営利の薪事業と混乱が起きやすいが分けるのは難しい。
森林組合との信頼関係、相互理解を大事にしている。

連携している団体・専門家・自治体など

- ①根羽村森林組合長 ②根羽村役場
- ③根羽村内には多くの小規模の活動団体がある。村の元気のもと
- ④村外の団体「全国スギダラケ倶楽部」やドイツ・レッテンバッハ村と根羽村の交流、連携

山村再生や、その担い手づくりに関わる具体的な活動(例:小仕事づくり、山村・森林資源活用など)

- ①次世代がメシを食えるように。自分の持っている山を次世代につなぐ意識と山作業
- ②不在森林については森林組合がやっている。
- ③木の駅はハードルを低くして始めた。出荷者が安全安心に出荷できるように安全第1のスキルアップのしくみづくり
- ④気持ちよく自己責任が基本。仲間で助けあう
平均年齢60代後半。最近50代が盛り上がっている。20代の登録者もいる。

現在直面している課題

- ①山に向き合う仲間づくり
- ②出荷量の確保
- ③木の駅実行委員会と薪の駅との棲み分け

今後やってみたいこと

現状自伐は少なく、大半は施業跡地の林地残材の収集。木の駅メンバーで山の間伐、搬出をやりたい。

そのためにはどんな情報・人脈が必要か

下記の団体と連携し進めている。

- ①木の駅プロジェクトとの連携、情報交換 <http://kinoeki.org/>
- ②矢作川流域圏懇談会との連携、情報交換 <http://www.cbr.mlit.go.jp/toyohashi/kaigi/yahagigawa/ryuiki-kondan/>
- ③日本全国スギダラケ倶楽部との連携、情報交換 <http://www.sugidara.jp/>
- ④木の駅アドバイザー 丹羽健司さんなど。

チームオリジナルの質問

<質問内容>

国交省や行政からの支援、指導を受けていますか？

<答え>

国交省の支援はを受けていません。村役場との協同であることが大きい。

その他、伝えたいこと

単に木材を売るだけではなく、より身近で気軽な木のある暮らしの提案と、根羽村の地域の魅力が体験できる交流とファンづくりを進めたい。

取材者の感想

取材した浅田が感じたことを最後に書きます。

訪問取材は2014年12月13日と2015年2月7日に行われた「根羽村 ここは世界の真ん中発表会」です。知らないこと、驚くことばかりの村でした。「根羽村は日本で一番幸せな村を目指しています。」は本当ではないかと思いました。春夏秋冬。何度でも訪ねたい村です。矢作川の上流にあることが愛知県人としても嬉しいです。

- ①村内の林業の専門家は2軒ある。昔は10軒あったからずいぶん減りました。
- ②剰余材なので木の駅では売っていない。木材が欲しい人は森林組合で買えます。協力して行っている。
- ③新聞記事によると、木の駅プロジェクトの年間搬出量は2013年度目標で約300立方メートル。集荷者登録は32世帯。手間賃として支払われた地域通貨「ねばね森券」は44万円。村内の22のお店で利用された。
- ④高齢者福祉施設への薪の供給の次に考えていること。
薪ボイラがもっと増えてゆく予感がしました。家でも事業所でも木の駅があれば便利になるでしょう。薪ボイラーは広葉樹しかダメであるが、オーストリア製(シュミット社)の薪ボイラーはスギ、ヒノキもOK。ヨーロッパには先進的なボイラーがある。豊田市すげの里には、シュミット製の薪ボイラー、薪ストーブがあるとのことです。 <http://www.ato-nagoya.com/experience/index.html>



① 木の駅実行委員会の南木さんに取材。キャロットにて



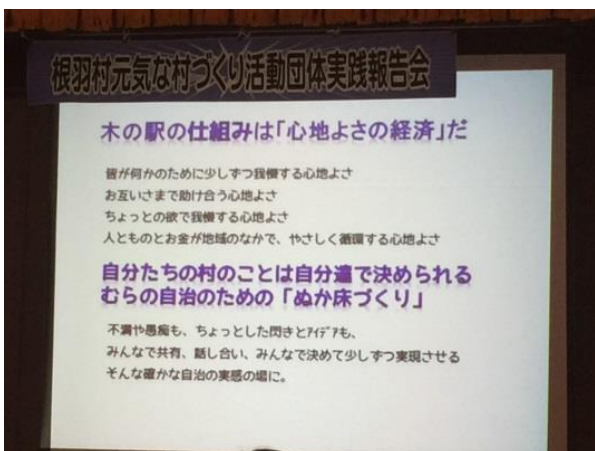
② 木の駅。153号線キャロットの隣にて



③ 建設中のねばねの里なごみ。ここで間伐材が薪ボイラーの燃料として利用される



④ 木の駅プロジェクトのしくみ 根羽村活動団体実践報告会にて



⑤ 木の駅プロジェクトの目的 「心地よさの経済を自治で」



⑥ 日本で一番幸せな村を目指して。ドイツのレッテンバッハ村とも交流